都市公園における子どもの遊び場環境づくりの可能性

－NPOと行政の協働による「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」を通して－

Perspective of Creating a Children's playground in Urban Parks

－Through the ESD Project in Collaboration with NPO and Administration－

岡野　聡子
Satoko Okano

キーワード：子どもと環境、子どもの遊び、ESD、プレーパーク、NPOと行政の協働

1. はじめに

筆者は、2012年３月からNPO法人岡山市子どもセンターのプレーパーク運営委員となり、都市公園における子どもの遊び場環境作りに携わってきた。2012年４月からNPO法人岡山市子どもセンターは岡山市庭園都市推進課と協働して「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」を実施する運びとなり、筆者はそのプロジェクトに参加をし、２年間に渡って記録を取りまとめてきた。本稿では、子どもの遊び場環境の変化にふれながら、プレーパークの機能を簡単に述べ、おかやまプレーパークの積み上げてきた実践と今回のプロジェクトの事業評価・考察を行うことを目的としている。

2. 子どもの遊び場環境をめぐって

（1）都市化に伴う子どもの遊び場環境の変化と子どもの遊びの変容

藤本（1974）は、「都市化に伴う地域環境の変貌は、子どもの遊び空間の変化に決定的な影響を与えると同時に、子どもの遊び環境を悪化させる基本的要因となっている。」と述べ、都市化が子どもの遊び環境を悪化させ、外遊びの減少の原因であることについて早くから警鐘を鳴らしてきた。また、子どもの遊び空間研究の第一人者といえる仙田（1992）は、子どもの遊びの原空間を「自然スペース」、「オープンスペース」、「アナーキースペース」、「アジトスペース」、「遊具スペース」、「道スペース」の６項目に分類し、その中でも子どもにとっては「自然スペース」が遊びの原空間の中心となり、その空間こそが失われつつあることを指摘した。藤木や仙田の研究から言えることは、都市空間の整備全体が大人の都合で回り始めた結果、都市化の進行によって緑ある空間の減少に歯止めがかからず、子どもの遊び場の縮小が余儀なくされたということである。都市空間における子どもの遊び場の代表格として取り上げられる公園においても、遊具の安全性や管理の問題[1]、大人の安全意識の向上から、公園内においても「木登り禁止」や「ボール遊び禁止」、「自転車乗り入れ禁止」といった禁止看板が目立つようになり、子ども達は禁止事項に囲まれて遊ぶようになったといえるだろう。

また、子どもの遊び場環境の変化に伴って、子どもの遊びの内容にも変化が見られるようになった。子どもの遊びの変容を研究してきた深谷ら（1990）は、遊びを「外遊び」と「内遊び」の２つに分類し、「子どもの遊びが①戸

外で②集団で③身近な道具を利用して④持続的集中的に遊ぶ子ども型の「遊び」から、①室内で②一人で③商品に依存して④軽く熱中せずに遊ぶ大人型の「遊び」へと転換をとげたのだと思われる」と述べている。24年前に「大人型の「遊び」へと転換を遂げた」と指摘されたことは、現代の子ども達の姿を見れば、何ら疑問を呈することもないほど一般的な姿になったのではないだろうか。子どもの外遊びに制限が加えられることによって、子どもにとっての外遊びの魅力が減った一方、ゲームを筆頭とした室内における遊びが充実し、子どもが外遊びよりも室内遊びを選択する傾向は、自然な流れであるといえよう。

（2）プレーパークとは　～プレーパークの機能とプレイリーダーの役割～

プレーパークは、上述した公園の禁止事項を取り払い、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして、子どもの「やってみたい」を実現する場である。プレーパークと呼ばれる冒険遊び場は、デンマークの造園家ソーレンセン教授らによる「エンドラップ廃材遊び場」（1943）の取り組みから始まった。ソーレンセン教授は、子ども達が整備された遊び場ではなく、資材置き場や空き地でいきいきと遊んでいる姿から手がかりを得て冒険遊び場を構想した。その後、イギリスのアレン卿夫人が廃材遊び場の意義と価値について取り上げた結果、ヨーロッパ各地だけでなくアメリカ、オーストラリアへと実践が広まった。日本へは、1970年代半ばにアレン卿夫人が書いた *"Planning for play"* が大村夫妻によって翻訳・紹介されたことが始まりである。冒険遊び場作りは草の根的に広まり、1979年には住民と世田谷区との協働事業として日本で最初の冒険遊び場である「羽根木プレーパーク」が設置された。

プレーパークの機能について、筒井（2009）は、「おかやまプレーパーク活動報告書～1ヶ月連続開催を終えて～」の報告書をもとに、①子どもの居場所、②子育て支援、③地域の活性化、④世代間を繋ぐ場・大人の癒しを取り上げている。第１の子どもの居場所の機能では、自分を自由に発揮できる場の必要性、第２の子育て支援では、親子で訪れて「子どもの遊び」や「子どもの視点」を親が発見し、普段の子育てのヒントとできることや親同士の情報交換も可能になること、第３の地域の活性化では、子どもと関わることを通じて大人が動き、大人同士が関わり、社会全体・街全体が活気づくこと、第４の世代間を繋ぐ場・大人の癒しでは、「遊び」には世代間を繋ぐ力があること、そして大人自身も自らを解放することでゆったりした時間を取り戻すことができるという。筆者はおかやまプレーパークの活動に参加する中で、子どものための遊び場であるプレーパークが、親子だけでなく、たとえば子育てを終えた一般ボランティアや教育学部の学生ボランティア、近隣の地域住民、活動運営を支えるサポータースタッフ・行政・企業といった多様な立場に置かれた人が出会い、ソーシャルキャピタルを醸成する場となっていることを感じ、③地域の活性化、④世代間を繋ぐ場としての機能が今後はさらに注目されると考えている。

次に、プレーパークにおけるプレイリーダーの役割であるが、アレン卿夫人は、『都市の遊び場』（1973）の中で「冒険遊び場を成功させる鍵は、おおかたプレイリーダーの資質や経験にあると言える」とその重要性について述べた上で、「もし子どもに関する専門教育を受けた者がプレイリーダーを目指すのなら、子どもに関する専門知識を一度すべて捨て去る必要がある。優れたプレイリーダーは、元大工とか船乗りだった人に多い。」と綴っている。また、近年のプレイリーダーに関する研究では、梶木・瀬渡（2002）を取り上げることができる。彼女らは、20名のプレイリーダーを対象としたインタビュー調査結果から、プレイリーダーが考えるプレイリーダーの役割について、「子どもの代弁者」との回答が最も多かったと報告している。子どもの代弁者という意味は多くの事柄を含ん

[1] 2007年２月18日（日）21時～に放映されたNHKスペシャル「公園から遊具が消える」では、公園に設置された遊具の安全性や管理に対して、子どもの遊び場をめぐる現実的な問題を可視化させた。行政としては、遊具の老朽化による維持管理コストがかかること、自治体職員の不足、遊具による事故から管理者責任を回避したいという理由から、公園から遊具を取り外すという選択肢を選ばざるをえない状況がある。

でおり、「子どもの遊びの必要性や重要性を子どもに変わって大人に伝えたり、大人とぶつかりあったり、そのことを通して子どもと大人をつなぐという役割」と述べている。また、「プレイリーダー歴の長い者には、「子どもが楽に生きられるようにすること」という意見がみられ、地域におけるソーシャルワーカーやカウンセラーとしての役割を重視する傾向がみられた」と述べている。

3.「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」の概要と「おかやまプレーパーク」について

（1）「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」の位置づけと目的

岡山市は2005年４月20日に「岡山ESDプロジェクト」を発足し、2005年6月に国連大学からESD[2]の地域の拠点であるRCE（Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development）に認定されるなど、我が国におけるESD先進地でもある。この流れの中で、「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」は、岡山ESDプロジェクトの一環として、岡山市子どもセンターと岡山市庭園都市推進課との協働事業として始められた。「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012」では、岡山市内にある西川緑道公園をはじめとした5つの公園（西川緑道公園・国際児童年記念公園こどもの森・西大寺緑花公園・野田屋町公園・下石井公園）を活用し、子どもが岡山市における中心市街地の公園の魅力を遊びを通して発見し、原風景として子どもの記憶にとどめてもらいたいという願いを込めて、公園内の緑とのかかわりを深めるための遊び場づくりを目的として事業を開始した。また、「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2013」では、前年度の活動に加え、大人が集える場作りの工夫も施した。たとえば、七輪カフェを設けたり、机やベンチを設けて大人がゆっくりと過ごせる空間作りなどである。そして、子どもを中心としたプロジェクトを通して、多様な立場の人々が出会える空間としての都市公園の利活用を考え、今後の都市公園計画に反映させることも目的に加えられた。

（2）岡山市子どもセンター「おかやまプレーパーク」とは

「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」を受託した岡山市子どもセンターは、2002年３月から「おかやまプレーパーク」を立ち上げて子どもの遊び場環境作りの活動を行ってきた。2002年３月から2007年４月までは不定期開催であったものの、活動期間を少しずつ増やしながら2007年５月に１ヶ月の連続開催をして以降、プレイリーダーを配置し、2008年から国際児童年記念公園こどもの森にて常設開催（週５日）を始めた。

おかやまプレーパークは、プレーパーク運営委員やサポーターの力を借りて、自らの手で作った大型滑り台をはじめとし、ハンモックやブランコを作るための布やロープ、木工作を楽しむための廃材や道具、穴掘り用のシャベルなど、子どもの「やってみたい」に応えられる環境を整えている。子どもが安心して遊べる環境作りの配慮では、ウッドチップを敷き詰めて、木登りをして落ちた際にも安全なように工夫を凝らし、プレイリーダーは、手作り遊具のボルトが締まっているかといったことから子どもが扱う道具についての安全確認を日々実施している。その他にも、プレーパーク運営委員を対象とした子どもが怪我をした際の応急処置のワークショップを開催するなどして、子どもが怪我をするリスクを減らす努力と常に緊急の事を想定しながら活動を実施している。

そして、運営の担い手はプレイリーダーだけでなく、プレーパーク運営委員や一般・学生ボランティアスタッフ

---

[2]ESDとは、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の頭文字を取ったものであり、「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことであり、その結果として持続可能な社会への変革を実現すること」を目指した活動である。日本は、2002年にヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」の実施計画の中で、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」として掲げ、ユネスコから正式に承認された。

が、1日に2～3名入って共に運営をしている。プレーパーク運営委員には、自分の子どもがプレーパークでお世話になったから手伝いたいという人や保育士をしていてプレーパークの運営に興味があるという人など様々である。なお、ボランティアスタッフとして活動に参加した場合、その日の参加者数や子どもの遊びの様子、怪我があった場合にはその状況と手当について等、活動記録を書きとめている。おかやまプレーパークにおける年間ボランティアスタッフ総数は600人（そのうち、一般ボランティアが69人、学生ボランティアが51人）を数え、草の根的な市民による活動が原動力となって運営されていることがわかる。

おかやまプレーパークを訪れる人は、ホームページや広報資料を見て、はっきりとした目的意識を持って来たというよりも、公園で過ごそうとしてたまたまプレーパークの活動が目に入り立ち寄った親子や、小学生では子ども同士のネットワークから友達が友達を連れて来て輪が広がるといったように、いわば自然発生的に参加者が増えていく様子がうかがえる。また、幼稚園や保育所から先生が引率をして子ども達が訪れる場合もあり、多様なルートを辿って参加者が集まる仕組みになっている。

こうして開催されているおかやまプレーパークの参加者は、年間参加者総数が17,300人（年間開催日数224日）に上っている。また、出張プレーパークも実施しており、2013年度は出張回数9回（9ヶ所）、参加者総数2799人、ボランティアスタッフ総数は112人であった。（「おかやまプレーパークREPORT2013」より）このような日常における活動を背景として、岡山市庭園都市推進課との「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」の事業委託が決定した。

4. 緑の遊び場（ESD）プロジェクトの取り組み

小稿では、「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」の事業受託から実施運営までの流れおよび本プロジェクトの具体的な取り組み概要について説明する。

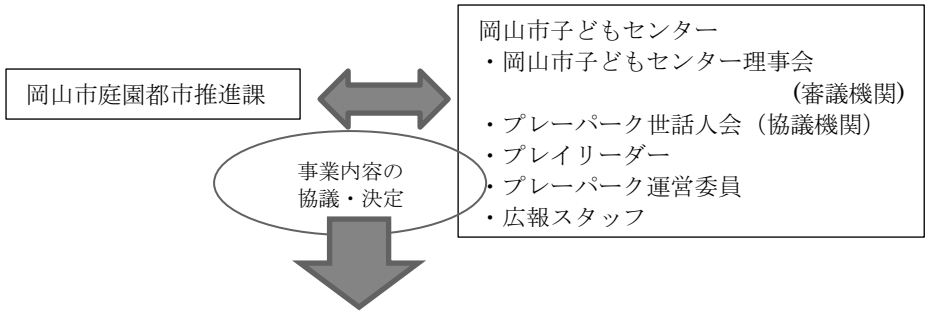
岡山市子どもセンターは、発足当初（2002）から西川緑道公園活用事業協議会に所属し、西川緑道公園における市民参加イベントに毎年出展者として参加をしてきた。その活動成果から、2011年に岡山市庭園都市推進課委託事業「花・緑ハーモニーフェスタin西川」を引き受け、その活動実績を根拠として本プロジェクトを受託した。

2012年度のプロジェクトは、岡山駅から半径14km圏内の5つの都市公園（西川緑道公園、国際児童年記念公園こどもの森、西大寺緑花公園、野田屋町公園、下石井公園）を舞台として合計25ヶ所の遊び場を設定した。2013年度のプロジェクトは、2012年度から2ヶ所（平田東公園、東山公園（どちらも岡山駅から半径14km圏内））を増設し、合計28ヶ所の遊び場を設定した。2013年度は、国際児童年記念公園こどもの森は雨天中止、野田屋町公園は大雪のため実質中止となったこともあり、実施されていたならば、遊び場の設定は合計35ヶ所となっていた。どの遊び場も設定する際には、各都市公園の特徴を最大限に活かした遊びの内容を考えると同時に、都市公園周辺地域の住民構成にも配慮をした。

2011.8 岡山市庭園都市推進課委託事業「花・緑ハーモニーフェスタ in 西川」の実施

2012.4 岡山 ESD プロジェクト「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2012」の事業受託決定

2012.6



2012.7 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2012」の実施構成メンバー決定（役割）
・プレーパーク運営委員（総合計画の立案・企画運営）
・岡山市庭園都市推進課（実施状況確認・評価）
・プレイリーダー（遊び場と遊び内容の検討および当日の運営）
・岡山市子どもセンターサポーター（当日の運営）
・一般・学生ボランティアスタッフ（当日の運営補助）
・広報スタッフ（広報）

2012.8～12 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2012」の実施場所とプロジェクトテーマ
2012.8.18　西川緑道公園（緑道）「西川・キッズ・夏物語」（610 人）
2012.8.26　国際児童年記念公園こどもの森（近隣公園）「夏・森・水」（250 人）
2012.11.10　西大寺緑花公園（地区公園）「緑の中で思いっきり遊ぼう」（1200 人）
2012.12.8　野田屋町公園（街区公園）「まちなかの遊び創造空間①」（100 人）
2012.12.9　下石井公園（街区公園）「まちなかの遊び創造空間②」（300 人）
*（）内は、参加者総数

2012.12 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2012」の実施評価

2013.2 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2012」の報告書提出

2013.4 岡山 ESD プロジェクト「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の事業受託決定

2013.6 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の実施内容の協議・決定

2013.7 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の実施構成メンバーの決定（2012 同様）

2013.8～2014.2 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の実施場所とプロジェクトテーマ
2013.8.17　西川緑道公園（緑道）「西川・キッズ・夏物語」（600 人）
2013.9.1　国際児童年記念公園こどもの森（近隣公園）「夏・森・水」（雨天中止）
2013.11.10　西大寺緑花公園（地区公園）「広い芝生と大きな木の下で遊ぼう」（480 人）
2013.11.13　平田東公園（街区公園）「さあ、お外で遊ぼうよ！」（200 人）
2014.1.25　東山公園（地区公園）「冬、ヒマラヤ杉の森で遊ぼう」（450 人）
2014.2.8　野田屋町公園（街区公園）「プレーパーク」（大雪のため実質中止）
2014.2.9　下石井公園（街区公園）「プレーパーク」（230 人）
*（）内は、参加者総数　/　*下線部分は、2013 年に新しく設置した遊び場

2014.2 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の実施評価

2014.3 「緑の遊び場（ESD）プロジェクト 2013」の報告書提出

図 1「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」事業受託から実施運営までの流れ

表1「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012」公園の概要とプロジェクトの概要

公園の概要				プロジェクトの概要			
公園名	種別	面積	公園の特徴	テーマ	プロジェクトの設定目的	遊び内容	実施日
西川緑道公園	緑道	3.16ha	岡山の中心市街地を南北に貫く西川用水の両岸に整備された散策道。左岸には南行き一方通行用道路、右岸には、北行き一方通行用道路が用水及び緑道に平行し、用水にはおよそ100mおきに車両も通る橋が架かっている。緑道は東西道路に細切れに分断されている。街中で自然を感じられる貴重な空間となっている。	西川・キッズ・夏物語	街中を流れる西川用水は、都市空間において水辺の生き物を観察できる貴重な場所である。本プロジェクトでは、子ども達が遊びを通して水辺環境の特徴に触れられるよう遊び場を設定した。	①子ども探検隊「西川の秘宝を探そう」 ②木工作 ③ｺﾘﾝﾄﾞｹﾞｰﾑづくり ④カプラで遊ぼう	2012年8月18日（土）
国際児童年記念公園	近隣公園	2.7ha	1979年の国際児童年を記念し、1984年5月に「国際児童年記念公園こどもの森」として開園した。園内には、県下市町村の木や花があふれ、まるた広場やいずみの森などテーマ設定のされた遊び場がある。2008年より、公園入口すぐの丘を中心として、岡山市子どもセンターが常設プレーパークを開設している。	夏・森・水	公園の中に簡易な組み立て式の遊びの道具（ウォータースライダーや小型シーソー等）を設置することで、公園での遊びの種類を増やした。また、夏の季節ならではの遊びを楽しむため、水と親しむことをテーマに遊び場を設定した。	①ｳｫｰﾀｰｽﾗｲﾀﾞｰ ②そうめん流しとスイカ割り	2012年8月26日（土）
西大寺緑花公園	地区公園	4.0ha	公園の中央には、体験学習施設（百花プラザ）があり、西側は、多目的広場と遊具ゾーン、東側は、芝生のあるはらっぱ広場と散策を楽しめる林間ゾーンがある。2009年に開催された全国都市緑化フェアのメイン会場としても活用され、現在も花と緑が豊かな公園として多くのボランティアスタッフや管理スタッフによる維持管理作業が行われている。	緑の中で思いっきり遊ぼう	芝生が広がるはらっぱ広場は、開放感を味わえるスペースである。場所が広いため、持ち運びのできる自然素材（木片、どんぐり等）を活用し、8種類の遊び場を設定した。また、公園を維持管理するボランティアスタッフや管理スタッフの協力も得られ、市民と行政による公園づくりの可能性を探ることも目的とした。	①ブランコ ②弓矢づくり ③木の実の工作 ④お絵かき ⑤ティピ ⑥スモア作り ⑦ベーゴマ ⑧木工作	2012年11月10日（土）
野田屋町公園	街区公園	0.2ha	1990年頃、西川緑道公園と一体的に利用できる場所として設置された。約500人が集えるレンガ敷きの広場と、ブランコや滑り台等の遊具が設置され、さらに周辺商業地の買い物客を意識したファッション性の高い公園である。現在では、噴霧設備に映像を投影する施設や遊具が老朽化のため故障し、計画時に想定した利用がなされていない現状が課題とされている。	まちなかの遊び創造空間①	本公園は、商業施設が立ち並ぶ中に位置しており、普段は子ども達が遊んでいる姿をあまり見かけないという課題があった。クリスマスも近いため、クリスマスを意識した飾り付けや遊び場を設定し、買い物帰りに立ち寄ってみたくなる場所作りを目指した。	①樹木ブランコ ②木登りロープ ③七輪の火を使って遊ぼう ④木工作 ⑤ｸﾘｽﾏｽﾂﾘｰ作り（まつぼっくりを使用）	2012年12月8日（土）
下石井公園	街区公園	0.88ha	1990年頃に、「銀河鉄道の夜」をイメージして整備された。2006年に隣接する小学校跡地の開発と足並みを揃える形で再整備された。公園の中央には多目的広場を設置し、北東部にステージ、南東部に花の下段、南に遊具ゾーンが設置されている。公園の北側には図書館を有する西川アイプラザ、東側には西川緑道公園の水上テラスがある。	まちなかの遊び創造空間②	本公園の北側には図書館もあるため、子どもだけでなく大人の利用者も多く見られる。地域に住む人々の交流という視点から、造形物を組み立て、目で見て楽しめる工夫も取り入れた遊び場を設定した。	①直火焼きパン ②木工作 ③木の棒と輪ゴムでものづくり ④長縄とび ⑤ｸﾘｽﾏｽﾂﾘｰ作り ⑥絵本の読み聞かせコーナー	2012年12月9日（日）

表２「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2013」公園の概要とプロジェクトの概要

公園の概要				プロジェクトの概要			
公園名	種別	面積	公園の特徴	テーマ	プロジェクトの設定目的	遊び内容	実施日
西川緑道公園	緑道	3.16 ha	岡山の中心市街地を南北に貫く西川用水の両岸に整備された散策道。左岸には南行き一方通行用道路、右岸には、北行き一方通行用道路が用水及び緑道に平行し、用水にはおよそ100ｍおきに車両も通る橋が架かっている。緑道は東西道路に細切れに分断されている。街中で自然を感じられる貴重な空間となっている。	西川・キッズ・夏物語	街中を流れる西川用水は、都市空間において水辺の生き物を観察できる貴重な場所である。本プロジェクトでは、子ども達が遊びを通して水辺環境の特徴に触れられるよう遊び場を設定した。	①子ども探検隊「緑のウォークラリー」（カモフラージュ、フィールドビンゴ、枝でﾊﾞｯﾁ作り） ②ツリーイング ③木工作 ④カプラで遊ぼう	２０１３年８月１７日（土）
国際児童年記念公園こどもの森におけるプロジェクトは、雨のため中止（2013 年９月１日（日））							
西大寺緑花公園	地区公園	4.0 ha	公園の中央には、体験学習施設（百花プラザ）があり、西側は、多目的広場と遊具ゾーン、東側は、芝生のあるはらっぱ広場と散策を楽しめる林間ゾーンがある。2009 年に開催された全国都市緑化フェアのメイン会場としても活用され、現在も花と緑が豊かな公園として多くのボランティアスタッフや管理スタッフによる維持管理作業が行われている。	広い芝生と大きな木の下で遊ぼう	芝生が広がるはらっぱ広場は、開放感を味わえるスペースである。場所が広いため、持ち運びのできる自然素材（木片、どんぐり等）を活用し、8種類の遊び場を設定した。また、公園を維持管理するボランティアスタッフや管理スタッフの協力も得られ、市民と行政による公園づくりの可能性を探ることも目的とした。	①木の実で遊ぼう ②ナチュラル素材でアートオブジェをみんなで作ろう ③クラウン遊び ④火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、焼ビー） ⑤お絵かき ⑥弓矢つくり ⑦木工作 ⑧どんぐり遊び	２０１３年１１月１０日（日）
平田東公園	街区公園	0.58 ha	1990 年に供用開始した街区公園。遊具が公園の外周部の北面と東面に設置されており、広場の北側に特徴的な時計台、中央部に芝生を有している。南側の多目的広場にはバスケットゴールも設置され、世代を超えた人々の交流を意識した場が整えられている。また、ゲートボールやグランドゴルフ利用者が公園の手入れをしており、清潔感がある。	さあ、お外で遊ぼうよ	本公園は、大型マンションが隣接し、岡山市内においても乳幼児が多い地域である。転入出が多い地区であり、地域とのつながりが薄いことが課題とされているため、母親が集いやすい場作り（七輪カフェ等）や集団遊びを多く取り入れた遊び場を設定した。	①ハンモック ②ティピ ③砂遊び ④絵本の読み聞かせコーナー ⑤玉入れ ⑥七輪カフェ ⑦綱引・なわ遊び	２０１３年１１月１３日（水）
東山公園	地区公園	3.86 ha	本公園は岡山市南東部に位置し、針潤混交林の自然公園である。路面電車終点から至近距離にあり、全市的公園といえる。公園の北側の広場には、ヒマラヤ杉が立ち並び、森のような雰囲気である。広場の園路は、グランドゴルフができ、手入れが行き届いている。また、広場の一角には、東山コミュニティハウスがある。	冬、ヒマラヤ杉の森で遊ぼう	本公園は、ヒマラヤ杉や太い樹木に囲まれていることが特徴であり、子どもの遊びをダイナミックに演出するため、特にロープを活用した遊び場を設定した。また、コミュニティハウスもあるため、カレーライスなどの調理も行い、地域住民にふるまった。	①ブランコ ②ﾓﾝｷｰﾌﾞﾘｯｼﾞ ③直火焼きパン ④火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、鍛冶屋体験） ⑤ままごと遊び	２０１４年１月２５日（土）
野田屋町公園におけるプロジェクトは、大雪のため実質中止（2014 年２月８日（土））							
下石井公園	街区公園	0.88 ha	1990 年頃に、「銀河鉄道の夜」をイメージして整備された。2006 年に隣接する小学校跡地の開発と足並みを揃える形で再整備された。公園の中央には多目的広場を設置し、北東部にステージ、南東部に花の下段、南に遊具ゾーンが設置されている。公園の北側には図書館を有する西川アイプラザ、東側には西川緑道公園の水上テラスがある。	プレーパーク	本公園の北側には図書館もあるため、子どもだけでなく大人の利用者も多く見られる。地域に住む人々の交流という視点から、造形物を組み立て、目で見て楽しめる工夫も取り入れた遊び場を設定した。	①木の棒で基地づくり ②直火焼きパン ③木工作 ④火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、焼ビー）	２０１４年２月９日（日）

*遊び場の下線部分は、2012 年度と比較して新しく設定された遊び場であることを示している。

５．事業評価および考察

（１）「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」における遊び場の評価および考察

本プロジェクトにおける遊び場の設定と遊びについては、プレーパーク運営委員やボランティアスタッフが意見を出し合い、最終的にはプレイリーダーが内容の精査を行い決定した。以下の表３「遊び場の設定と専門性の有無のマトリクス」は、遊び場の設定と遊びが、どのような人員配置によって運営がされていたかを見るために作成した。なお、遊びの数は、2012年度が25種類、2013年度が28種類と合計53種類であった。

表３　遊び場の設定と専門性の有無のマトリクス

専門性の有無／遊び場	専門性（プレイリーダー・専門職および指導員による実施）	非専門性（プレーパーク運営委員・ボランティアスタッフによる実施）
日常型の遊び場（手に入れ易い準備物を使用した遊び場）	※おかやまプレーパークを開催している国際児童公園こどもの森が雨天中止でなければ、ロープを使用した遊びなどの項目が上げられた。	ウォータースライダー（こどもの森） お絵かき（西大寺 12・西大寺 13） ベーゴマ（西大寺 12） 長縄とび（下石井 12） 木の棒と輪ゴムでものづくり（下石井 12） 砂遊び（平田東 13） 綱引・なわ遊び（平田東 13） ままごと遊び（東山 13）
イベント型の遊び場（手に入り難い準備物および設定場所の制限や配慮が加わる遊び場）	●子ども探検隊「西川の秘宝を探そう」（西川 12） カプラで遊ぼう（西川 12・西川 13） ●ブランコ（西大寺 12・東山 13） 弓矢つくり（西大寺 12・西大寺 13） ●樹木ブランコ（野田屋町 12） ●木登りロープ（野田屋町 12） 絵本の読み聞かせコーナー（下石井 12・平田東 13） ●子ども探検隊「緑のウォークラリー」（西川 13） ●ツリーイング（西川 13） ●モンキーブリッジ（東山 13） ●ハンモック（平田東 13） どんぐりを用いた遊び（西大寺 13）	木工作（西川 12・西大寺 12・野田屋町 12・下石井 12・西川 13・西大寺 13・下石井 13） コリントゲームづくり（西川 12） そうめん流しとスイカ割り（こどもの森 12） スモア作り（西大寺 12） 七輪の火を使って遊ぼう（野田屋町 12） クリスマスツリー作り（野田屋町 12・下石井 12） 直火焼きパン（下石井 12・東山 13・下石井 13） 木の実の工作（木の実で遊ぼう）（西大寺 12・西大寺 13） ナチュラル素材でｱｰﾄｵﾌﾞｼﾞｪをみんなで作ろう（西大寺 13） ティピ（西大寺 12・平田東 13） 火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、焼ﾋﾞｰ）（西大寺 13・下石井 13） 火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、鍛冶屋体験）（東山 13） クラウン遊び（西大寺 13） 玉入れ（平田東 13） 木の棒で基地づくり（下石井 13） 七輪カフェ（平田東 13）

※公園の名称の横に12としているものは2012年度を表し、13としているものは2013年度である。

日常生活において子どもでも手に入れ易い準備物で設置できる遊び場を「日常型の遊び場」とし、日常生活において手に入り難い準備物、また、設置場所の制限および配慮が加わる遊び場を「イベント型の遊び場」と位置付けた。専門性の有無では、プレイリーダーが担当していた遊び場や、西川緑道公園で実施した子ども探検隊、ツリーイング、カプラで遊ぼう、下石井公園等で実施した絵本の読み聞かせコーナー、西大寺緑花公園で実施したどんぐりを用いた遊びにおいて、それぞれ専門職および指導員が配置されていたため専門性に位置付けた。

特にプレイリーダーが主催する遊びはダイナミックなものであり、子ども達の注目を集めた。ブランコ作りやモンキーブリッジ、木登りロープ、樹木ブランコ、ハンモックの設置では、子どもが力を込めて引っ張ってもロープが解けないように締める特殊な結び方が必要であるため、プレイリーダーのように一定の訓練を受けた者が設置できる遊び場であった。

全体の遊び内容の実施比率を見ると、日常型の遊び場/専門性は０％であり、イベント型の遊び場/専門性は30.2％、日常型の遊び場/非専門性は17.0％、イベント型の遊び場/非専門性は52.8％であった。この実施比率を見ると、遊び場の約７割が非専門性群にあり、この群を担っているプレーパーク運営委員やボランティアによる活動がプロジェ

クトに大きな貢献を果たしていると言える。

また、緑の遊び場（ESD）プロジェクトの目的である「子どもが岡山市における中心市街地の公園の魅力を遊びを通して発見し、原風景として子どもの記憶にとどめてもらいたいという願い」には来場者アンケートからの回答も含め、十分応えられていると考えられる「公園内の緑とのかかわりを深めるための遊び場づくりを目的とした」では、合計53種類の遊びのうち８種類の設定（表３の●で記した遊び場）、であり、15%の実施率であった。

次に、2012年度、2013年度の合計10ヶ所における遊びの実施頻度は、以下の通りである。

表４　実施回数から見た遊び場の設定/専門性の有無、実施場所

実施回数	日常型・イベント型の遊び場/専門性の有無	実施場所
7 回	◆イベント型の遊び場/非専門性 木工作	西川 12・西大寺 12・下石井 12・ 西川 13・西大寺 13・下石井 13
3 回	◆イベント型の遊び場/非専門性 直火焼きパン	下石井 12・東山 13・下石井 13
2 回	◆イベント型の遊び場/専門性 カプラで遊ぼう ブランコ 弓矢つくり 絵本の読み聞かせコーナー	西川 12・西川 13 西大寺 12・東山 13 西大寺 12・西大寺 13 下石井 12・平田東 13
	◆日常型の遊び場/非専門性 お絵かき	西大寺 12・西大寺 13
	◆イベント型の遊び場/非専門性 クリスマスツリー作り 木の実の工作（木の実で遊ぼう） ティピ 火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、焼ビー）	野田屋町 12・下石井 12 西大寺 12・西大寺 13 西大寺 12・平田東 13 西大寺 13・下石井 13
1 回	◆イベント型の遊び場/専門性 子ども探検隊「西川の秘宝を探そう」 木登りロープ 樹木ブランコ どんぐりを用いた遊び 子ども探検隊「緑のウォークラリー」 ツリーイング モンキーブリッジ ハンモック	西川 12 野田屋町 12 野田屋町 12 西大寺 13 西川 13 西川 13 東山 13 平田東 13
	◆日常型の遊び場/非専門性 ウォータースライダー ベーゴマ 長縄とび 砂遊び 綱引・なわ遊び ままごと遊び	こどもの森 12 西大寺 12 下石井 12 平田東 13 平田東 13 東山 13
	◆イベント型の遊び場/非専門性 コリントゲームづくり そうめん流しとスイカ割り スモア作り 七輪の火を使って遊ぼう 木の棒と輪ゴムでものづくり 火を使って遊ぼう（べっこう飴作り、鍛冶屋体験） ナチュラル素材でアートオブジェをみんなで作ろう クラウン遊び 玉入れ 木の棒で基地づくり 七輪カフェ	西川 12 こどもの森 12 西大寺 12 野田屋町 12 下石井 12 東山 13 西大寺 13 西大寺 13 平田東 13 下石井 13 平田東 13

実施回数は、イベント型の遊び場/非専門性の木工作が７回と最も多く、次にイベント型の遊び場/非専門性の直火焼きパンが３回、イベント型の遊び場/専門性（カプラで遊ぼう・ブランコ作り・弓矢つくり・絵本の読み聞かせコーナー）、日常型の遊び場/非専門性（お絵かき）、イベント型の遊び場/非専門性（クリスマスツリー作り・木の実の工作・ティピ・火を使って遊ぼう（べっこう飴づくり、焼ビー）・）が２回であった。木工作は、おかやまプレーパークにおいても常時設置しているため準備や用意がしやすく、また、参加者も親子や友達同士で協力して作品を作ることができるため設置者側も参加者側も満足度の高い遊び場であると言え、設定回数が増えたと考えられる。また、直火焼きパンでは、竹にパン生地を巻き付けて火でゆっくりと炙りながら焼くのだが、数に限りがあり毎回数量を増やしてみるものの足りない状況であった。

（２）保護者アンケートの実施

2013年度から、簡単な保護者アンケートを導入した。「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2013報告書～岡山市における中心市街地の公園の利活用～」から、質問事項および結果を抜粋し、考察する。アンケート用紙は受付に立ち寄った人にのみ配付をし、回収はその場で行った。アンケートの回答者総数は、179人であった。質問事項は、(1) 遊び場について、(2) ESDへの参加について、(3) 感想（自由記述）である。

【質問事項】

(1) 遊び場について

①各遊びコーナーでは、子ども達の遊ぶスペースが十分確保されていたと思いますか。

②スタッフ・ボランティアスタッフの対応は適切でしたか。

(2) ESDへの参加について

今後も「緑の遊び場（ESD）プロジェクト」に参加をしたいと思いますか。

(1) 遊び場についての①では、全体の87.8％が「十分確保されていた・確保されていた」と回答し、②では、全体の93.6％が「大変適切であった・適切であった」と回答している。(2) ESDへの参加についてでは、全体の95.2％が「是非参加したい・参加したい」と回答した。次に、(3) 感想（自由記述）は、以下である。

(3) 感想（自由記述）

西川緑道公園

・西川のいろんな顔が見れて楽しかったです。また、真夏でも木々と川があれば暑さは感じない。風の良さが心地よく人間が自然と共生していくことの大切さを強く感じました。

・子どもが久しぶりに野生にかえった気がしました（ツリーイング）。木工作では、のこぎりや釘を使っての作業で、私のストレス発散になりました。カプラでは、あまり時間がありませんでしたが、涼しくのんびりできました。

・自宅で木工作をさせようとしても、材料や道具を準備するのが難しいことから、非常に助かった。ある材料を見て作るものを考えさせ、親子で共に作業することが出来て大変楽しい時間を過ごせました。

・家では危険でなかなかできない事を自由にさせてあげられてとてもよかった。うれしそうで真剣な子どもの顔に感動でした。良いきっかけをありがとうございます。

西大寺緑花公園

・子どもの遊べる所が少ないので、こうしたイベントはうれしいです。

・４～10歳の３人を連れてきましたが、それぞれのコーナーで楽しく過ごせました。

・火を使って竹を曲げる。今の子はわからないだろうなと思う。子どもはこういう機会が本当にない。

・子どもに色々と体験させたいので良かった。お父さんも一緒に楽しめてよかった。

平田東公園
・ハンモックや電車ごっこ、娘はとても楽しい表情をしていました。また、近くで同じような企画があればぜひ参加したいです。
・公園に沢山お友達が集まって、いろんな遊びが出来て良かったです。ハンモックは少し怖いと言って乗ってくれず残念でした。つなひきや電車ごっこにも少し参加できてよかったです。ティピに入った時、「おうち、おうち」と言って、毛糸をさわって遊んでいました。また近くでして頂きたいです。
・綱引きは、大変盛り上がってよかったと思います。ハンモックも普段できない体験で楽しそうでした。
・幼稚園が終わってからの参加だったので、遅くなりましたがとても楽しかったです。

東山公園
・普段の公園が特別な冒険の場になり、体全体を使って楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。直火焼パンのパン種が足りなくてできず、残念でした。
・とても楽しく参加できました。小学生も楽しかったようです。火の体験はとても楽しいようでした。
・パン焼きはとても楽しく（美味しく）て、泣いて「もう一度したい」とわがままを言うほどでした。お外遊びで、相撲や綱引きを楽しんでいました。
・各コーナー、とても楽しかったです。プレイリーダーさんもさすが！！と思いました。子育ての参考になりました。
・南区から来ました。もっと身近な公園でも同様なイベントがあればいいなと思いました。楽しかったです。ありがとうございました。

下石井公園
・初めてきました。たまたま図書館に来て遊んでみました。べっこうあめ楽しかったです。パン焼きがあったみたいですが、やりたかったです。次回あればやってみたいです。
・のこぎりの使い方など、丁寧に教えていただき、ありがとうございました。楽しかったです。
・手作り体験ができて、子どもも楽しかったようです。これからも続けてほしいです。
・子どもの森でされているのを知っていたのですが、参加できず、今回、下石井公園で参加できて、そしてとても楽しく過ごすことができました！
・昨年も楽しかったので今年も来ました。パンを楽しみにしていたのですが、売り切れていたので残念でした。でも昨年無かったマシュマロ、べっこうあめ、子ども達がとても喜んでいました。雪の翌日ですごくぬかるんでいたのが大変でした。スタッフのみなさんありがとうございました。また、機会があったらぜひ参加したいです。

西川緑道公園は中心市街地に位置しているため、自然観察や水辺の生き物の観察をする上では、都市部における貴重な場所である。また、様々な樹木が植わっているため季節折々の花を楽しむことができる。感想にも、西川の自然と触れ合えたことに対する喜びの声が寄せられている。また、「火の体験」や「ハンモックの遊び」が書かれており、普段家庭ではできない遊びが、本プロジェクトを通して体験できたことは意義があると思われる。また、「家では危険でなかなかできない事を自由にさせてあげられてよかった。うれしそうで真剣な子どもの顔に感動でした。」や「プレイリーダーさんもさすが！！と思いました。子育ての参考になりました」との感想もみられた。子どもが遊びに没頭し、真剣なまなざしで何かに取り組んでいる姿を見た時、プレーパークが理念として掲げている「自分の責任で自由に遊ぶ」という意味の理解にもつながると思われる。

６．おわりに

本稿をまとめながら、筆者自身が近所の公園でよく遊んでいたシーソーも回転遊具も今は撤去されていることに気が付いた。一体いつの時代から、公園における子どもの歓声が聞こえなくなったのか、記憶を辿ってみても、も

う思い出せなくなっている。公園にシーソーがあった頃は、両端に３人も４人も団子になって乗り合わせ、ギッコンバッタンと落ちそうになってヒヤヒヤしながら友達にしがみ付いていた自身の体験を思い出すたびに、今の子ども達の遊びはどうなっているのか、その実態について詳しく知りたくなった。

この２年間に渡る計10回の「緑の遊び場（ESD）プロジェクト2012・2013」の実施を通して、子ども達は一度遊びのきっかけをつかめば、自分の心を開いて遊びに没頭し、自分なりの工夫を凝らして遊ぶ姿を何度も見ることができた。木工作では、それぞれの子どもが金槌で自分の手をたたかないように慎重に釘を打ち、そのまなざしは真剣そのものであった。一人では木を固定しておくことができず、思わず知らない誰かに「ここ、押さえてほしい！」と声を掛け、その場で友達になった二人の男の子の姿も観察することができた。他にも、「クラウン遊び」と岡山市子どもセンターが銘打った子どもでも簡単にジャグリングが楽しめるおもちゃ箱には、けん玉やゴムひも、ルービックキューブ、コマ、アメリカンクラッカー、皿回し、デビルスティック、ディアボロ、シガーボックスが入っているのだが、当初、子ども達は興味を示すものの、扱い方がわからないようで見ているだけであった。その様子を見ていた運営スタッフがクラウン遊びの中で比較的簡単にできる皿回しをやって見せると、子ども達は皿回しに挑戦し始め、その他のおもちゃ箱に入っているおもちゃも飛ぶように無くなった。このように、何かとっかかりがあれば、そこから遊びはいつでも生まれる。また、子ども達は、「やってみたい」と思って始めた事柄に対しては簡単にあきらめないということも付記しておきたい。

今後の課題としては、本プロジェクトがESDの一環として実施されてきたことも考慮し、特別なイベントとして終わらせるのではなく、おかやまプレーパークの継続事業として位置付けることができるかどうか、考える必要がある。また、プレーパークの運営や今回のプロジェクトは、ボランティアスタッフの多大な労力によって支えられていると言え、プレーパークを支えたいと思うボランティアスタッフの動機や背景についても調査し、継続的に事業を運営できる要因についても探りたい。

（引用文献・参考文献）

梶木典子・瀬渡章子（2002）「冒険遊び場におけるプレイリーダーの役割と確保―プレイリーダーに対するインタビュー調査結果―」日本建築学会技術報告集第16号：pp.309-312

嶋村仁志（2005）「「遊び」を通して子供に関わるということ　冒険遊び場とプレーリーダー」駒澤大学教育学研究論集21：pp.135-145

仙田満（1992）『子どもと遊び―環境建築家の眼』岩波書店：p.205

筒井愛知（2001）「子ども・若者の遊びの空間」田中治彦編著『子ども・若者の居場所の構想～「教育」からかかわりの場へ』学陽書房：pp.130-153

―（2009）「プレーパークの運営と子どもの遊び―「おかやまプレーパーク」の活動から―」環太平洋大学研究紀要第２号：pp.115-120

深谷昌志・深谷和子編著（1990）『子ども世界の遊びと流行』大日本図書：p.152

アービット・ベンソン著,大村虔一・大村璋子訳（1974）『新しい遊び場』鹿島出版会

アレン・オブ・ハートウッド卿夫人著,大村虔一・大村璋子訳（1973）『都市の遊び場』鹿島出版会

遊びの価値と安全を考える会編（1998）『もっと自由な遊び場を』大月書店

大村璋子（2000）『“自分の責任で自由に遊ぶ”遊び場づくりのハンドブック』ぎょうせい

―（2009）『遊びの力―遊びの環境づくり30年の歩みとこれから』萌文社

岡野聡子・道仙八千代（2012）「緑の遊び場（ESD）プロジェクト報告書」NPO法人岡山市子どもセンター
―（2013）「緑の遊び場（ESD）プロジェクト報告書」NPO法人岡山市子どもセンター
羽根木プレーパークの会編（1987）『冒険遊び場がやってきた！－羽根木プレーパークの記録』晶文社
藤本浩之輔（1974）『子どもの遊び空間』NHKブックス

（参考資料）

NPO法人子どもセンターおかやまプレーパークHP：
http://www.kodomo-npo.jp/playpark/（2014/06/29）
NPO法人日本冒険遊び場づくり協会HP：http://www.ipa-japan.org/asobiba/（2014/06/29）
おかやまプレーパーク（2013）「おかやまプレーパークREPORT2013」NPO法人岡山市子どもセンター